

新型コロナウイルス感染症について ver.15

R3/1/16 院長

★相手を正しく知り、賢く恐る

コロナが流行して1年が経過し、かなりのことがわかってきています。毎日のように感染者数等の報道が飛び交っていますが、必ずしも多くの人に今までわかってきている事実が伝わっていないように感じます。今回は大事な事実を再確認したいと思います。

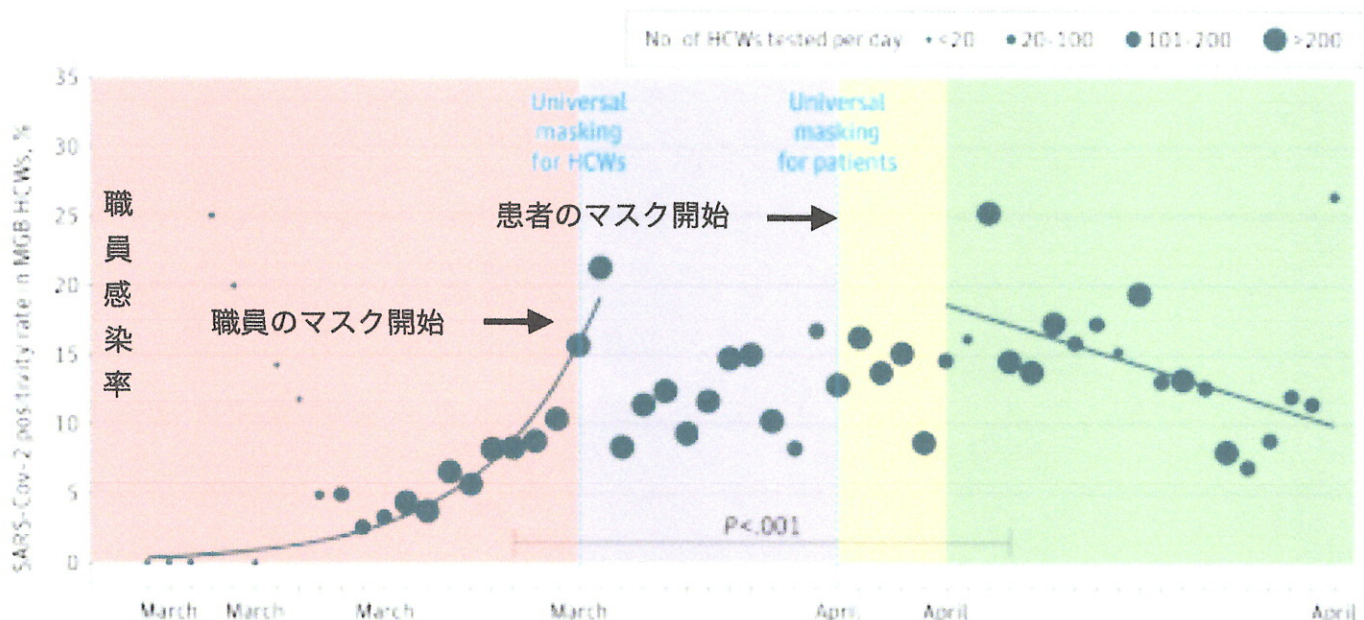
★無症状感染者が非常に多い！

最近の報告では何と新規コロナ感染の約50%は無症状感染者からの感染であるとされています。驚くべき数字です。今元気で無症状であることはコロナに感染していない保証には全くならないことになります。この事実からは多くのことが言えます。

まず**第一に、感染を完全に防ぐのは困難である**ということです。このところ病院でのクラスターの発生が増えていますが、最大限の感染管理をしていてもこれはどこでも起きることなのです。コロナの患者を多く引き受けている病院ほど起こす確率は当然高くなります。起きてしまったら適切に対応し早期の解決を望むのみです。患者を引き受けてくれる病院に対しては感謝しかありません。職員の皆さんもどうか下を向かず、今まで通り誇りを持って医療者としての使命を全うしてください。

第2にマスクは大事だということです。無症状でもコロナにかかっている可能性があるので公共の場でマスクをつけることは、万が一自分がコロナであった時に他人へうつさない為の思いやりでもあるのです。マスクも色々な種類がありますが、状況に応じた使い分けが賢いでしょう。電車・バスなどの密集・密接の可能性がある状況では不織布性マスクがおすすめです。外での散歩や人が周囲にいない状況では布マスクで十分でしょう。

下図は米国マサチューセッツ州の12の病院の合計75000人以上の職員の院内感染率のユニバーサルマスクング（常にマスクをつけること）導入前後での推移を見たものです。職員がユニバーサルマスクングをただけでは院内感染は減少せず、入院患者も全員ユニバーサルマスクングして初めて減少していることがわかります。最大で25%(約2万人)の職員が感染しています。米国は色々な意味でやはり規模が違いますね



★感染者の唾液にウイルスが多く存在する

コロナ感染者のどこにウイルスが多く存在するのでしょうか？血液や尿や便などには感染力のあるウイルスは少ないことがわかっています。上気道（口腔・咽喉頭）と下気道（気管から肺）に存在し特に唾液の中に多く存在します。そのため唾液のPCR検査も認められるようになりました。

唾液が多くなり飛沫となり飛び散る状況（いわゆる感染が起きやすい状況）は日常生活の中でどのような状況か考えてみましょう。**一番は会話を伴う食事**です。飲酒が悪いのではなく、夜にウイルスが多いわけでもありません。会話を伴う食事が一番感染のリスクが高まるのです。従って感染対策もそこが重要になるのです。

テレビでよく見る知事の記者会見で話し出すときにマスクをわざわざ外す人がかなりいますが、これも本末転倒ですね。会話していない歩いている時にマスクをして、感染のリスクが高まる会話時にマスクを外すのはもっての外です。

★致死率はインフルエンザよりもかなり高い

下表は日本人の致死率です。全体で1.4%で高齢になる程高くなり80代以上では14%と非常に高くなります。若い人にとってはコロナは風邪のようなものという意見は正しくありません。若い世代でもやはりインフルエンザと比べれば重症化する可能性が高いのです。どの年代においても季節性インフルエンザよりも高いのです。現在のコロナ感染者数が30万人程度なので死亡者数は4000人程度ですが、これが例年のインフルエンザ並みの流行になれば死亡者数は何と16万人となります。その規模になると当然若い年代の死亡者数も今よりかなり増えることとなります。決してあなどれない感染症なのです。

致死率（％）

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	年齢階級計
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	1.7	5.7	14.0	1.4
男	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	2.4	7.7	19.3	1.6
女	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.8	3.4	10.8	1.3

* 年齢階級別にみた死亡者数の男性者数に対する割合

★感染対策の目的

高リスクの方（高齢者や基礎疾患のある方）を感染から守り、可能な限り死亡を減らすことが最大の目的になります。これは第1波の時から変わらぬ目的です。感染症は免疫力が弱い人がかかりやすいので、健康な人が免疫力の弱い人をどう守れるかにかかっています。多くの若い人にとってはかかっても軽く済みますが、一人一人がかからないようにすることが最終的には多くの弱い人の命を救うことにつながるのです。

”One for all （一人はみんなのために）

All for one （みんなは1つの目的のために）”